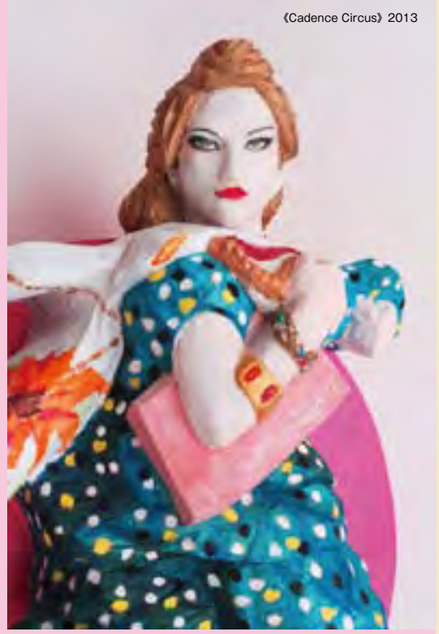
あーとふる 50

彫りだされた視線 艶やかに、したたかに——

白波の月、黒空の星、五色の人。彫刻王子、生誕の地・松本に凱旋。



《Cadence Circus》2013

松本市出身で、国内外で活躍を続ける彫刻家・飯沼英樹（1975年～）の初の大規模個展を開催します。

本展は、2000年頃から手掛けはじめた女性像のなかから約120点をご紹介するものです。それら女性像の多くはファッション誌からイメージを得て彫り上げられます。最新ファッションとメークを身に纏った美女たちの視線に漂う気高さ—。モデル自らの意思のみならず、他者の意識が介在することによる使命感、高揚感がそれを後押ししているのかもしれません。

ファッション誌が常に時代の最先端であろうとするなかで、彼女たちは消費社会の象徴と捉えることもできますが、その状況をも利用する強かさも備えているかのようです。そんな、現代を「闘ウ女神タチ」に対して、作家の視点はひどく冷静でありながら、なによりも情熱的です。そして、モチーフたる女性の内面性にまで言及します。

像に対峙した際、鑑賞する人によって受ける印象が違うかもしれません。それは、刃跡を残した木肌が個々の感覚で補正されることで、独自の現実味を帯びるからなのでしょう。

この展覧会の見所は、女性像の視線とその背景にある作者の視点、そして、鑑賞者の目線が交錯したその先にあります。現在を生きる三者だからこそ感じ得る境地をご堪能いただけましたら幸いです。

《Oberbayern》2016

Art Exhibition Guide

展覧会情報 澁田見 彰（当館学芸員）

松本市美術館 MATSUMOTO CITY MUSEUM OF ART

《Tova》2008

HIDEKI IINUMA

FIGHTING THE GODDESSES

MATSUMOTO CITY MUSEUM OF ART

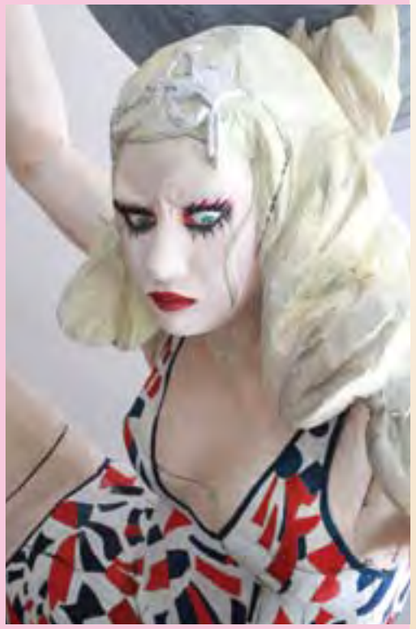
飯沼英樹 闘ウ女神タチ

2016 9/17 sat ▶ 11/27 sun

開館時間／9:00～17:00（入場は16:30まで） 休館日／月曜日（祝日の場合は次の平日）

観覧料／大人800円、70歳以上の松本市民600円、学生無料

※20名以上の団体は100円引き ※障害者手帳携帯者とその介助者1名無料



《Punk Poet》2015

© HIDEKI IINUMA

主催 松本市美術館 共催 SBC 信越放送・市民タイムス 後援 一般財団法人松本市芸術文化振興財団・信濃毎日新聞社・長野県松本蟻ケ崎高等学校同窓会 協力 SNOW Contemporary・松本バルコ・松本日産自動車株式会社

第15回 ポルカドット号 探検記

旅する木彫家

《十一面観音菩薩立像》木造 11世紀中頃 神奈川・弘明寺

今年の山の日制定に因む企画展には多くの来館者があった。山に続いて今度は木の話題。江戸時代のユニークな彫刻家、無数の木彫仏を彫りながら全国を歩いた円空と木喰のことはよく知られているだろう。彼等は山岳修行者でもあり彫刻はその行だった。日本の山は木彫の故郷なのだ。

今回紹介したいのは、さらに歴史を遡って平安時代の不思議な木彫のこと。横浜の下町、賑やかな商店街の一角の堂にこの十一面観音立像が安置されている。一般の平安仏で思い浮かべる金箔や、彩色で美しく仕上げられた姿にほど遠い素朴な表情、何より粗いノミ跡が全身を覆うのは後世の円空仏を思わせる。

関東と東北の一部だけに残るこれらの「鉈彫」仏像についてはまだわからないことが多い。未完成説もあるが、最近では意図的に粗く仕上げたとの説が有力だ。山岳信仰が背景にあるともいう。なるほど、神木に籠る霊気を失わないよう、特別なマジックを施したのか。見えない木の精が観音の姿を帯びて現れてくる過程のようにも見える。土地の霊に感じながら生活を送っていた古代人の感性は現代の我々にも訴えてくる。

そのことで思うのは、今月の企画展でご覧いただく飯沼英樹の木彫作品のこと。松本生まれの飯沼さんはフランスやドイツを旅し、現代彫刻を学んだ。ファッション雑誌から抜け出したような女性像だが不思議な生気に満ちている。現れてくるものを瞬間に切り取る、冴えた彫技に驚かされるだろう。見かけは現代風だが、意外と世界の宗教彫刻の遺伝子を受け継いでいるのかもしれない。現代の十一面観音か。

松本市美術館館長 小川 稔

Relay Essay リレー・エッセイ 22

自由に描いてみよう

堀井 真美（当館学芸員）

「自由に描いていいよ」と言われると、少なからず困ってしまう人はいるのではないだろうか。

8月はじめに開催した、あそ美じゅつ「妖怪のいる風景を描こう」でのこと。〝妖怪の描き方を学ぶ〟のではなく、自然の風景の中に不思議な気配を見出し、それを〝自由に描く〟内容の講座。なじみ深い、むしろ意識さえしていないかもしれない、自分を取り巻く自然風景を別視点で捉え、表現することを楽しんでほしいというのがねらいであった。

参加した子どもたちは、戸惑いもなく、絵筆をどんどんと進めていた。一方、スタッフとして携わった高大生は、描くこと自体に壁を感じているようであった。子どもたちの柔軟な発想に触れるにつれ、時々戸惑いながらも楽しみを見出していった様子が印象的であった。

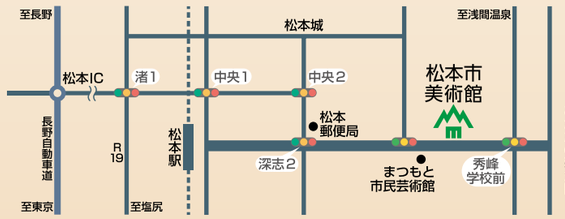
〝自由に〟となると漠然としていて、完成した姿をぱっと想像することが難しい。こちらのねらい通りの完成に向けて事細かに誘導すれば、ある程度、見栄えのする作品となるかもしれないが、それではつまらない。型にはまり過ぎず、参加する側も指導する側も何か発見があるワークショップとなってほしい。自由の怖さの先にある面白さの発見—。これが答えのような気がする。

完成した作品

松本市美術館 news あーとふる
編集・発行
松本市美術館 MATSUMOTO CITY MUSEUM OF ART
〒390-0811 長野県松本市中央 4-2-22 TEL0263-39-7400 FAX0263-39-3400

リサイクル適性Ⓐ この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

◇松本バスターミナルからアルピコ交通バス・横田信大循環線５分［松本市美術館］下車
◇ＪＲ松本駅からタウンスニーカー（市内周遊バス）東コース 14 分［松本市美術館］下車
◇ＪＲ松本駅から徒歩 12 分 ◇長野自動車道松本インターチェンジから車で 15 分



/// Workshop Report ///

ワークショップレポート / 中澤 聡（当館学芸員）

■ アートに挑戦「はじめてのアクリル画」

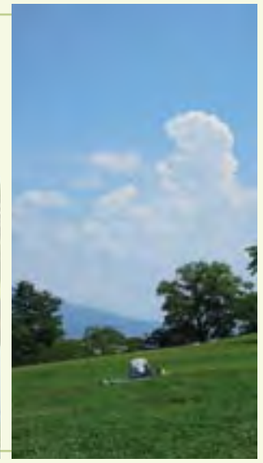
7月18日(月・祝)

アクリル絵の具を使った美術入門講座。同じレクチャーを受けながらの制作、でもひとつとして似た作品はなし！ 絵の具を垂らしたり引っかいたり、それぞれの気分でおもいっきり描きました。

■ あそ美じゅつ「妖怪のいる風景を描こう」

8月4日(木)・5日(金)

自然の中に不思議な気配を感じたことはありませんか？ アーティストの原良介さんとその不思議な気配を描きに出かけました。



■ はじめてのびじゅつかんさんぽ「探検！ びじゅつかん！」

7月20日(水)

小さなまる、まるの中にまる、じっくりみると見えてくるまる?! 親子で草間彌生の作品鑑賞をしながら、たくさんの“まる”を探して楽しみました！

■ これからのイベント・講座

「探検！ びじゅつかん！ パート2」

懐中電灯を手に、夜の美術館を探検します！

●**日にち** 9月28日(水)　●**対象** 3歳から5歳のお子さんとその保護者

※好評につき、受付は終了しました。

「探検！ びじゅつかん！ パート3」

コレクション展示「石井鶴三特集展示」を楽しみます。

●**日にち** 11月2日(水)　●**対象** 2歳から6歳のお子さんとその保護者

アートレクチャー「上條信山の書法」

松本出身の書家・上條信山の書風が生まれた所以や筆法について学びつつ、その筆遣いを体験してみましょう。

●**日にち** 10月27日(木)　●**講師** 大島武（当館学芸員）

アートレクチャー「石井鶴三と挿絵」

信州にゆかりの深い、彫刻家・画家の石井鶴三が、約40年にもわたって描き続けた挿絵についてお話します。

●**日にち** 11月24日(木)　●**講師** 稲村純子（当館学芸員）

※時間や定員等、詳細はホームページをチェック！

展覧会プレオープン企画

■「アーティスト in ミュージアム」

8月11日(木)～15日(月)

作品ってどうやってできるんだろう？ 何を使って？ どんなふうに？
企画展「飯沼英樹 闘ウ女神タチ」に先立ち、今回飯沼英樹さんの作品制作現場を美術館にて公開！
作家の視線や動き、感じる音やにおいなど、作品が生まれる過程を多くの方にご覧いただきました。

お 知 ら せ

美術館を飛び出して、飯沼作品が松本の街に出現！ 松本パルコ、ホテルブエナビスタ等に飯沼英樹作品が登場します。
いつ、どこで、どんな作品に出会えるのか？ 乞うご期待！

「飯沼英樹 闘ウ女神タチ」関連プログラム

①アーティスト・ギャラリートーク

作家本人によるギャラリートークです。ここでしか聞くことのできない裏話も！

●**日にち** 9月17日(土)　●**講師** 飯沼英樹

②高校生講座「続・アーティストと話そう！ 作ろう！」

直接聞いて、一緒に作って、アーティストとしての生き方に触れてみましょう。

●**日にち** 10月22日(土)　●**対象** 高校生　※一般の方の見学可　●**講師** 飯沼英樹

③五感で楽しむアート「美術館でヨガをしよう！」

体を使って作品鑑賞をしてみませんか？ 噂のヨガ・ヒデキが登場します！

●**日にち** 11月6日(日)　●**対象** 小学生～大人　●**講師** ヨガ・ヒデキ

④学芸員によるギャラリートーク

●**日にち** 10月1日(土)・10月29日(土)・11月12日(土)

※時間や定員等、詳細はホームページをチェック！

号外　松本市美術館の作品が鹿児島に出張！

アートでつながる 松本と鹿児島

このたび鹿児島市立美術館で、松本市美術館の貴重なコレクションをご紹介する展覧会、「松本市美術館名品展―西郷孤月、田村一男から草間彌生まで」（平成28年9月30日～11月6日）を開催いたします。

松本と鹿児島は平成24年に文化・観光交流都市となりました。松本―福岡間の航空便就航と九州新幹線の全線開通により両市が結ばれて4年、スポーツや観光などを中心に様々な交流がなされてきましたが、松本の美術を本格的にご紹介するのは初めての機会です。

草間彌生をはじめとする松本ゆかりの芸術家たち、美しい信州の風景を主題とした作品の数々など、魅力あふれるコレクションの多彩な表情を、鹿児島の地でお伝えしたいと思います。

稲葉 麻里子（鹿児島市立美術館学芸員）

鹿児島市立美術館外観

田村一男《薩南雪天》
1970年

草間彌生《果てしない人間の一生》
2010年 ©YAYOI KUSAMA

■鹿児島市立美術館
URL http://www.city.kagoshima.lg.jp/artmuseum/

視る

このコーナーでは、当館所蔵の作品を取り上げて紹介します。

藤村先生像（二）

石井 鶴三

■コレクション展示
「石井鶴三特集展示」・「新収蔵作品おひろめ展」
会期：平成28年10月15日(土)～12月25日(日)
会場：常設展示室B・C

石井鶴三（つるぞう）は、画家・石井鼎湖（ていこ）の三男として東京に生まれた。祖父は画家・鈴木鵞湖（がこ）、長兄は画家・石井柏亭（はくてい）という芸術家の血筋にあって、鶴三もまた彫刻家を目指す。その生涯は、彫刻家・画家として立体の美をつきつめる美術家修行の人生であった。日本近代彫刻の代表的作家としてだけでなく、油彩画、水彩画、版画、そして挿絵など様々な分野で活躍した。

さて、鶴三は信州に大変ゆかりのある人物である。1906年、20歳の時に浅間山に登り、明け方に山頂から雲海に浮かぶ山並みに強く心を打たれ、毎年のように山に登るようになった。また、1924年に信州上田の彫塑講習会の講師を依頼される。以後、毎夏50年近く務め、信州の美術教育に多大な影響を与えた。

そして信州木曽とも深い縁（えん）がある。木曽馬の制作をしたほか、木曽出身の文豪・島崎藤村（1872-1943年）の彫刻を全部で4体制作した。

1体目の彫刻は、藤村が亡くなる前年の1942年秋。東京麹町の藤村の家に10日ほど通い続け、座った藤村を目の前にして制作した。この時、一つのエピソードがある。作り始めた当初、藤村は、体を少しねじって顔を少し左に向けていた。しかし3日目に、疲れるからと言って、体を真っすぐにして頭を正面に向けた姿勢に変えた。その時点ではすでに塑造の根底となる体勢が決まっていたが、やり直すには時間がない。そのため鶴三は、力を加えて体勢の向きを変えたという。これには相当の神経を使ったようで、日記に「塑造の動勢を直し神経を余計に使いしと見え疲労を感ず」と残している。この時に出来上がった藤村像は、正面を向いている。

2体目は、藤村が姿勢を変える前の、顔を少し左に傾けた姿をもとに制作した塑造である。その姿にこそ藤村の内面が深く表れている、と鶴三の心に強く残っていたからだ。本作は、これをブロンズ化したものである。

3体目は、正面を向いた藤村、4体目は、少し左を向いた藤村をそれぞれ木曽檜で彫り上げている。

今秋、松本市美術館で石井鶴三特集展示を開催する。2009年に当館へ寄贈された2万点を超える作品資料の中から、未公開作品も含めてのご紹介。石井鶴三の世界をお楽しみいただきたい。

稲村 純子（当館学芸員）

作品名：《藤村先生像（二）》
作　者：石井鶴三（1887－1973年）
データ：1950年　ブロンズ
サイズ：高41.8㎝

参考文献　石井鶴三日記Ⅱ　2005年　形文社

©Keibunsha.Ltd.2016/JAA1600154